



# 平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月27日

上場会社名 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社  
 コード番号 8242 URL <http://www.h2o-retailing.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 鈴木 篤

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 森 忠嗣

TEL 06-6365-8120

四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	212,319	0.8	3,601	19.8	4,644	120.1	4,027	29.8
29年3月期第1四半期	213,958	0.6	3,006	5.7	2,110	38.6	3,102	48.5

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 10,765百万円 ( %) 29年3月期第1四半期 953百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	32.62	32.45
29年3月期第1四半期	25.15	25.02

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	641,385	272,487	42.3
29年3月期	640,543	264,323	41.1

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 271,389百万円 29年3月期 263,220百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		20.00		20.00	40.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		20.00		20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	430,000	0.8	6,100	7.9	6,000	17.2	3,200	51.2	25.92
通期	895,000	0.7	21,000	6.8	20,100	7.5	12,000	16.1	97.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 - 社(社名) - 、除外 - 社(社名) -
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 有  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(注)当第1四半期連結会計期間より、持分法適用関連会社において、ポイントに係る会計処理を変更しております。詳細は、添付資料P.9「2.(3)会計方針の変更」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	125,201,396 株	29年3月期	125,201,396 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	1,734,368 株	29年3月期	1,737,627 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	123,466,496 株	29年3月期1Q	123,382,399 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載の連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.4「1.(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
(セグメント情報) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

各セグメントの概況は次のとおりです。

#### ①百貨店事業

阪急うめだ本店では、昨年大規模改装を行いリニューアルオープンした婦人服ファッション売場が、ファッション感度の高いお客様を中心に幅広い世代から支持され好調に推移しました。また、継続的な情報発信強化による広域からの集客力向上に加え、インバウンド需要についても化粧品を中心に大きく伸長した結果、阪急メンズ大阪を含めた阪急本店の売上高は51,940百万円、前年同期比107.4%となりました。

阪神梅田本店では、平成30年春のI期棟オープンに向け、順調に建て替え工事が進んでおります。工事の影響により客数は伸び悩みましたが、主力の食料品の売上が前年並みに推移した結果、売上高は12,622百万円、前年同期比98.2%となりました。

支店においても、紳士と化粧品を強化した博多阪急、ライフスタイル提案型の売場を強化した西宮阪急が堅調に推移した結果、百貨店事業全体で売上高、営業利益ともに前年実績を上回りました。

《百貨店事業の業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	99,712	104.5
営業利益	3,319	139.3

#### ②食品事業

株式会社阪急オアシスでは、「みんなで創るあなたの市場」をスローガンに当期も2店舗を出店し、ドミナントエリア内での店舗網拡充を進めました。イズミヤ株式会社では、食事業強化を軸とした既存店の改装を2店舗で行いました。また、現在4店舗(GMS2店舗、SM2店舗)において建て替え工事が進行中で、本年度実施予定の店舗と合わせ店舗再編計画も順調に進んでいます。その他、食品製造会社各社においても、グループ外への販路拡大や製造部門の生産性向上に努めました。

しかし、イズミヤの店舗再編に伴う営業店舗数の減少の影響もあり売上高は前年実績を下回りました。また、営業利益についても、昨年7月1日にイズミヤ株式会社を不動産の管理・開発を行う株式会社エイチ・ツー・オー アセットマネジメントと小売事業を担うイズミヤ株式会社(新設)に分社化した関係で、大幅な減益となりました。

《食品事業の業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	96,478	93.4
営業損失	△703	-

③不動産事業

株式会社阪急商業開発では、運営する「モザイクモール港北」が、店舗の入れ替えの効果で集客力が高まり、専門店、百貨店ともに好調に推移しました。株式会社カンソーでは、人件費を中心としたコストコントロールによる経営効率の向上に取り組み、営業利益は前年同期実績を上回りました。

尚、前述の通り、昨年7月にイズミヤ株式会社を株式会社エイチ・ツー・オー アセットマネジメントとイズミヤ株式会社（新設）に分社化した関係で、大幅な増益となっております。

《不動産事業の業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	3,301	144.5
営業利益	1,552	256.4

④その他事業

株式会社大井開発では、運営する「阪急大井町ガーデン」のホテル部門が引き続き高い客室稼働率を維持しました。

専門小売店業態におきましては、株式会社家族亭が新規メニューの開発・導入を積極的に行いました。

また、株式会社エフ・ジー・ジェイや、株式会社阪急B&Cプランニングも新規出店などにより事業規模の拡大を進めました。このような取り組みの結果、その他事業全体の業績は以下の通りとなりました。

《その他事業の業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	12,827	98.8
営業利益	2,525	112.7

以上のような結果、当第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年6月30日）における連結売上高は212,319百万円、前年同期比99.2%、営業利益は3,601百万円、前年同期比119.8%となりました。経常利益は4,644百万円、前年同期に為替予約評価損801百万円を営業外費用に計上したため前年同期比は220.1%となりました。

また、イズミヤ株式会社にて退職給付制度改定益1,445百万円を特別利益に計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,027百万円、前年同期比129.8%となりました。

《連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)》

	金額(百万円)	前年同期比(%)
売上高	212,319	99.2
営業利益	3,601	119.8
経常利益	4,644	220.1
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,027	129.8

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は641,385百万円となり、前連結会計年度末に比べ842百万円増加しました。これは、投資有価証券が含み益の増加などにより10,491百万円、季節要因等により受取手形及び売掛金が3,107百万円増加した一方、現金及び預金が法人税の納付などにより12,519百万円減少したことによるものです。

負債合計は368,898百万円となり、前連結会計年度末から7,321百万円減少しました。これは、繰延税金負債が4,909百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が6,794百万円、コマーシャル・ペーパーが2,000百万円、未払法人税等が3,691百万円、それぞれ減少したことなどによるものです。

また、純資産は272,487百万円と前連結会計年度末から8,163百万円増加しました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益4,027百万円の計上と配当金の支払2,469百万円などにより利益剰余金が1,427百万円、投資有価証券の含み益の増加によりその他有価証券評価差額金が7,514百万円増加したことなどによるものです。

なお、自己資本比率は42.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期の連結業績はほぼ想定通り推移しており、第2四半期累計及び通期の予想については、平成29年5月11日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	83,481	70,962
受取手形及び売掛金	43,588	46,696
商品及び製品	33,531	34,656
仕掛品	174	198
原材料及び貯蔵品	1,587	1,391
繰延税金資産	4,146	5,207
未収入金	5,063	4,992
その他	7,172	6,139
貸倒引当金	△428	△427
流動資産合計	178,318	169,816
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	108,262	107,037
機械装置及び運搬具（純額）	3,745	3,916
土地	134,591	134,593
建設仮勘定	2,012	1,884
その他（純額）	10,348	10,515
有形固定資産合計	258,961	257,947
無形固定資産		
のれん	5,217	5,074
その他	12,326	12,212
無形固定資産合計	17,543	17,287
投資その他の資産		
投資有価証券	103,031	113,522
長期貸付金	3,868	3,862
差入保証金	69,060	68,971
退職給付に係る資産	683	1,498
繰延税金資産	9,960	9,340
その他	2,067	2,097
貸倒引当金	△2,952	△2,958
投資その他の資産合計	185,720	196,334
固定資産合計	462,225	471,569
資産合計	640,543	641,385

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	59,394	52,600
1年内償還予定の社債	6,600	6,550
コマーシャル・ペーパー	2,000	-
1年内返済予定の長期借入金	29,585	29,518
未払金	14,329	11,622
リース債務	675	671
未払法人税等	4,744	1,053
繰延税金負債	4	0
商品券	23,846	24,908
賞与引当金	4,885	3,762
役員賞与引当金	177	52
店舗等閉鎖損失引当金	441	288
ポイント引当金	1,750	1,837
資産除去債務	1,089	1,082
その他	39,676	43,060
流動負債合計	189,202	177,010
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	108,593	108,685
繰延税金負債	21,521	26,435
再評価に係る繰延税金負債	265	265
役員退職慰労引当金	245	195
商品券等回収引当金	3,558	3,596
退職給付に係る負債	18,209	17,606
長期未払金	526	753
リース債務	7,706	8,150
長期預り保証金	11,494	10,987
資産除去債務	2,567	2,650
その他	2,328	2,559
固定負債合計	187,017	191,888
負債合計	376,219	368,898
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,796	17,796
資本剰余金	92,732	92,729
利益剰余金	125,490	126,918
自己株式	△3,234	△3,228
株主資本合計	232,786	234,216
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	31,227	38,742
繰延ヘッジ損益	21	20
土地再評価差額金	125	125
為替換算調整勘定	△309	△568
退職給付に係る調整累計額	△629	△1,147
その他の包括利益累計額合計	30,434	37,172
新株予約権	1,098	1,094
非支配株主持分	3	3
純資産合計	264,323	272,487
負債純資産合計	640,543	641,385



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	213,958	212,319
売上原価	151,092	149,791
売上総利益	62,866	62,528
販売費及び一般管理費	59,859	58,926
営業利益	3,006	3,601
営業外収益		
受取利息	21	43
受取配当金	518	755
諸債務整理益	324	350
為替予約評価益	-	130
その他	174	489
営業外収益合計	1,039	1,770
営業外費用		
支払利息	269	252
為替予約評価損	801	-
商品券等回収引当金繰入額	266	260
その他	598	214
営業外費用合計	1,935	727
経常利益	2,110	4,644
特別利益		
退職給付制度改定益	-	1,445
固定資産売却益	4,291	1,073
店舗等閉鎖損失引当金戻入額	203	-
特別利益合計	4,495	2,518
特別損失		
店舗等閉鎖損失	1,094	427
固定資産除却損	68	279
減損損失	4	79
特別損失合計	1,167	786
税金等調整前四半期純利益	5,437	6,376
法人税、住民税及び事業税	1,262	909
法人税等調整額	1,071	1,439
法人税等合計	2,334	2,348
四半期純利益	3,102	4,027
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,102	4,027

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	3,102	4,027
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,756	7,514
繰延ヘッジ損益	△2	△0
為替換算調整勘定	32	22
退職給付に係る調整額	90	△517
持分法適用会社に対する持分相当額	△420	△280
その他の包括利益合計	△4,056	6,737
四半期包括利益	△953	10,765
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△953	10,765
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

一部の持分法適用関連会社においては、顧客への付与ポイントに係る収入及び引当等の会計処理について、従来、売上高と販売費及び一般管理費に計上しておりましたが、当連結会計年度より、預り金による処理に変更いたしました。

これは、当社グループが提供するポイントサービスについて、阪急阪神ホールディングスグループとの共通ポイント「Sポイント」サービスへの制度変更が行われたことに伴い、ポイントの付与及び精算等のプロセスについて見直した結果、実態をより適切に反映するために行ったものであります。

当連結会計年度の期首の純資産に、前連結会計年度の期末における未使用ポイント残高と、ポイント引当金の差額を基に算定した累積的影響額を反映しております。なお、当該会計方針の変更による前連結会計年度の損益への影響額及び前連結会計年度の期首の純資産に反映されるべき累積的影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

この結果、当連結会計年度の期首の利益剰余金が130百万円減少しております。また、当第1四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益、1株当たり情報に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	百貨店 事業	食品事業	不動産 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	95,429	103,261	2,285	12,981	213,958	—	213,958
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	129	1,496	2,760	7,956	12,342	△12,342	—
計	95,559	104,757	5,045	20,938	226,300	△12,342	213,958
セグメント利益	2,381	1,079	605	2,240	6,307	△3,301	3,006

- (注) 1. セグメント利益の調整額△3,301百万円は、セグメント間取引消去であります。  
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「百貨店事業」セグメントにおいては、(株)阪急阪神百貨店・堺 北花田阪急の営業終了決定に伴い、当第1四半期連結累計期間に原状回復費用相当額として780百万円の減損損失を計上しております。なお、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

「食品事業」セグメントにおいては、イズミヤ(株)他について、店舗の閉鎖等に伴い、当第1四半期連結累計期間に252百万円の減損損失を計上しております。なお、店舗閉鎖に係る損失252百万円について、四半期連結損益計算書においては、特別損失の店舗等閉鎖損失に含めて表示しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	百貨店 事業	食品事業	不動産 事業	その他 事業	計	調整額 (注1)	四半期連 結損益計 算書計上 額(注2)
売上高							
(1) 外部顧客への売上高	99,712	96,478	3,301	12,827	212,319	—	212,319
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	126	1,175	4,531	7,837	13,671	△13,671	—
計	99,838	97,653	7,832	20,665	225,990	△13,671	212,319
セグメント利益又は 損失(△)	3,319	△703	1,552	2,525	6,693	△3,091	3,601

- (注) 1. セグメント利益の調整額△3,091百万円は、セグメント間取引消去であります。  
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性に乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。